

# 第8章

## 資料編

---



奄美博物館 (撮影：奄美市)

# 1 奄美大島における希少野生動植物の指定状況

分類	種名(和名)	区分			
		1	2	3	
哺乳類	アマミトゲネズミ	●			
	アマミノクロウサギ	●			
	ケナガネズミ	●			
	ヤンバルホオヒゲコウモリ	●			
	リュウキュウテングコウモリ	●			
鳥類	アカヒゲ	●			
	アマミヤマシギ	●			
	オーstonオオアカゲラ	●			
	オオトラツグミ	●			
両生類	アマミイシカワガエル	●			
	アマミハナサキガエル			●	
	イボイモリ	●			
魚類	オットンガエル	●		●	
	キバラヨシノボリ		●		
	タナゴモドキ		●		
	タメトモハゼ		●		
	ヨロイボウズハゼ			●	
	リュウキュウアユ		●		
昆虫類	ルリボウズハゼ			●	
	アマミキンモンフタオタマムシ			●	
	アマミシカクワガタ			●	
	アマミナガゴムムシ			●	
	アマミマルバネクワガタ			●	
	アマミヤマクワガタ			●	
	ウケジママルバネクワガタ	●			
	ハネナガチョウトンボ	●		●	
	ヒメフチトリゲンゴロウ			●	
	フェリエベニボシカミキリ			●	
	フチトリゲンゴロウ	●			
	マルダイコクコガネ			●	
ヨツオビハレギカミキリ			●		
甲殻類	オカヤドカリ			●	
	ナキオカヤドカリ			●	
	ムラサキオカヤドカリ			●	
	ヤエヤマシオマネキ			●	
	リュウキュウシオマネキ			●	
貝類	ルリマダラシオマネキ			●	
	シマカノコ		●		
	ネニヤダマシギセル			●	
腕足類	ムラクモカノコガイ		●		
	ヤエヤマヒルギシジミ		●		
腕足類	ミドリシャミセンガイ			●	
合計		42	15	7	22

(注) 分類群ごとに和名の五十音順で表示した。

分類	種数
哺乳類	5
鳥類	4
両生類	4
魚類	6
昆虫類	12
甲殻類	6
貝類	4
腕足類	1
植物	52
合計	94

分類	種名(和名)	区分			
		1	2	3	
植物	アサトカンアオイ			●	
	アツイタ			●	
	アマミアオネカズラ			●	
	アマミアセビ		●		
	アマミアワゴケ			●	
	アマミイワウチウ			●	
	アマミエビネ		●		
	アマミカタバミ			●	
	アマミクサアジサイ			●	
	アマミスミレ			●	
	アマミセイシカ		●		
	アマミテンナンショウ			●	
	アマミデンダ		●		
	アマミナツトウダイ			●	
	アマミマツバボタン			●	
	ウケユリ		●		
	オオバカンアオイ			●	
	オナガエビネ		●		
	カクチョウラン		●		
	カケロマカンアオイ			●	
	カンラン		●		
	キバナノセッコク			●	
	グスクカンアオイ			●	
	クスクスラン		●		
	ケイタオフウラン※			●	
	コゴメキノエラン		●		
	コショウジョウバカマ			●	
	サガリラン			●	
	シコウラン		●		
	ダイサギソウ			●	
	タイワンショウキラン			●	
	チケイラン			●	
	テンノウメ		●		
	トリガミネカンアオイ			●	
	ナギラン			●	
ナゴラン		●			
ナゼカンアオイ			●		
ハマジンチョウ			●		
ハマトラノオ			●		
ヒメシラヒゲラン			●		
ヒメトケンラン			●		
ヒメミヤマコナスビ			●		
フウラン		●			
フジノカンアオイ			●		
ミヤビカンアオイ		●			
モダマ			●		
ヤクシマネツタイラン			●		
ヤドリコケモモ		●			
ヨウラクヒバ			●		
リュウキュウスズカケ			●		
リュウキュウヒモラン			●		
レンギョウエビネ		●			
合計		52	3	14	35

区分

1：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律

2：鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例

3：希少野生動植物の保護に関する条例（奄美大島5市町村指定）

※分類上の変更により現在は市町村指定植物種のうちケイタオフウランは、アマミカヤランとされている。

[出典：「希少野生動植物は県民みんなの宝です 奄美群島版（平成31年3月 鹿児島県環境林務部自然保護課）」をもとに作成]

## 2 奄美大島で確認されている対策が必要な外来種

### 各欄の説明

#### ■ 外来生物法

**特定外来生物**：外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものの中から指定される。指定された生物は、飼育、栽培、保管、運搬、譲渡、輸入や、野外へ放すことなどが禁止される。

**未判定外来生物**：生態系等に被害を及ぼすおそれがあるものである疑いのある外来生物が指定される。指定された生物を輸入しようとする者は国に届出る義務があり、審査の結果、「被害を及ぼすおそれがない」という判定の通知を受けなければ輸入できない。

〔出典：日本の外来種対策（環境省ウェブサイト）〕

#### ■ 生態系被害防止外来種リスト

外来種の日本国内における侵略性を評価し、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす、またはそのおそれがあるものを、生態的特性及び日本へ導入される社会的状況も踏まえて、環境省と農林水産省が選定した外来種のリスト。

**総合対策外来種**：国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害を及ぼしている、またはそのおそれがあるため、防除、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な種。下記の3区分がある。

**緊急対策外来種**：対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある種。

**重点対策外来種**：甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い種。

**その他の総合対策外来種**：緊急対策外来種、重点対策外来種以外の総合対策外来種。

〔出典：我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）（平成27年3月 環境省ウェブサイト）〕

#### ■ 鹿児島県指定外来動植物

県内に分布している在来生物を捕食したり、競合、駆逐するなど、生態系に係る被害を及ぼし、または及ぼすおそれがある外来動植物について、地域を定めて指定される。

「指定外来動植物」の取扱いを規制する地域では、適切な施設で飼養等が義務付けられるほか、野外への放出等（放出・植栽・播種）が禁止される。

〔出典：「指定外来動植物の指定種リスト（令和元年11月 鹿児島県ウェブサイト）〕〕

#### ■ 鹿児島県外来種リスト

鹿児島県の生態系、農林水産業や人の生活に悪影響をもたらし、あるいはもたらすおそれのある外来種の問題について実態を把握し、今後の外来種対策における基礎資料とするため、鹿児島県が作成した外来種のリスト。

**防除対象種**：本県に影響を及ぼす外来種のうち、県内に定着しており、防除対策及び普及啓発が必要な種。下記の3区分がある。

**緊急防除種**：本県に大きな影響を及ぼしており、緊急に防除対策が必要な種。

**重要防除種**：本県に大きな影響を及ぼしており、防除対策について検討が必要な種。

**一般防除種**：本県に影響を及ぼしており、防除対策について検討が必要な種。

〔出典：鹿児島県外来種リスト（平成29年3月改定 鹿児島県ウェブサイト）〕

分類	和名	外来生物法		生態系被害防止外来種リスト (環境省・農水省)			鹿児島県 指定外来 動植物	鹿児島県外来種リスト			分布情報 の出典
		特定 外来生物	未判定 外来生物	総合対策外来種				防除対策種			
				緊急対策 外来種	重点対策 外来種	その他		緊急 防除種	重要 防除種	一般 防除種	
哺乳類	クマネズミ			○					○	1, 2, 3	
	ジャコウネズミ								○	2, 3	
	ドブネズミ				○				○	2	
	ニホンイノシシ(ブタ・イノブタを含む)				○*		○		○	1, 3	
	ノイヌ(イヌの野生化したもの)				○				○	1, 2, 3	
	ノネコ(イエネコの野生化したもの)			○					○	1, 2, 3	
	ノヤギ(ヤギの野生化したもの)			○				○		1, 2, 3	
	ハツカネズミ				○				○	2, 3	
フイリマンブース	○		○				○		1, 2, 3		
鳥類	キジ(コウライキジを含む)								○	1, 2, 3	
	シマキンバラ								○	2	
爬虫類	アカミミガメ			○				○		1, 2, 3	
	カミツキガメ			○						2	
	クサガメ								○	2, 3	
	タシロヤモリ								○	2	
	ニホンスッポン				○		○	○		1, 2, 3	
	ホオグロヤモリ							○		2, 3	
両生類	ウシガエル	○			○			○		1, 2, 3	
魚類	カダヤシ	○			○				○	1, 2	
	ギンブナ								○	2	
	グリーンソードテール						○			2	
	コイ						○			2	
	ジルティラピア					○		○		1, 2	
	ナイルティラピア(チカダイ)					○				1	
	アリモドキゾウムシ							○		2, 3	
アルファルファタコゾウムシ								○	2		
昆虫類	イエシロアリ								○	2, 3	
	イエヒメアリ								○	2	
	イモゾウムシ							○		2, 3	
	カブトムシ					○				2	
	クワカミキリ								○	2	
	ゴマダラカミキリ								○	2	
	サカイシロテンハナムグリ					○				3	
	サツマイモノメイガ								○	2	
	シロスジオサゾウムシ								○	2	
	チャバネゴキブリ								○	2, 3	
	デイゴヒメコバチ								○	2	
	トコジラミ								○	2	
	バショウコクゾウムシ								○	2	
	ホシベニカミキリ								○	2	
	マツノマダラカミキリ								○	2	
その他 動物	アシヒダナメクジ								○	2	
	アズキガイ								○	2	
	アフリカマイマイ				○			○		1, 2, 3	
	アメリカザリガニ		○	○					○	1, 2	
	インドヒラマキガイ								○	2	
	カサネカンザシ					○				2, 3	
	コウラナメクジ(キロナメクジ)								○	2	
	サカマキガイ								○	2	
	シナハマグリ					○				2	
	シマメノウフネガイ					○				2	
	スクミリンゴガイ				○			○		2	
	ソメワケダワラガイ							○		2	
	タイワンシジミ種群								○	2	
	タテジマフジツボ					○				2	
	チャコウラナメクジ								○	2	
	トクサオカチョウジガイ								○	2	
	ニューギニアヤリガタリクウズムシ	○		○				○		2	
	ハイイロゴケグモ	○		○				○		1, 2	
	マツノザイセンチュウ									1	
	ミドリイガイ									2	
ムラサキイガイ									2		
ヤンバルトサカヤスデ									○	1, 2, 3	
合計	63種類	5種類	1種類	9種類	9種類	14種類	4種類	10種類	24種類	17種類	

(注) 分類群ごとに和名の五十音順で表示した。

(注) 奄美大島で確認されている外来種のうち、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律、生態系被害防止外来種リスト、指定外来動植物による鹿児島県の生態系に係る被害の防止に関する条例、鹿児島県外来種リストにおいて、特に対策が必要とされている種を掲載した。

※生態系被害防止外来種リストでは、在来のリュウキュウイノシシとの交雑が生じている可能性から「徳之島などのニホンイノシシ」が総合対策外来種の重点対策種とされており、奄美大島もこれに準じて○を付けた。

- 分布情報の出典
- 1：奄美・琉球の島別外来種の分布情報を集めています(平成25年9月版 環境省 那覇自然環境事務所 ウェブサイト)
  - 2：鹿児島県外来種リスト(平成29年3月改正 鹿児島県ウェブサイト)
  - 3：侵入生物データベース(独立行政法人 国立環境研究所 ウェブサイト)
- (注) 分布情報が「琉球列島のほぼ全域」「県内全域」「離島を含む県内各地」「奄美群島、奄美諸島」等の記述の場合も、奄美大島に分布しているとみなした。

分類	和名	外来生物法		生態系被害防止外来種リスト (環境省・農水省) 総合対策外来種			鹿児島県 指定外来 動植物	鹿児島県外来種リスト			分布情報 の出典	
		特定 外来生物	未判定 外来生物	緊急 対策種	重点 対策種	その他		防除対策種				
								緊急 防除種	重要 防除種	一般 防除種		
植物	アカギ							○			1	
	アキノエノコログサ								○		1	
	アゾラ・クリスタータ	○		○						○	1, 2	
	アメリカアサガオ				○						1	
	アメリカセンダングサ					○					1, 2	
	アメリカツノクサネム								○		1	
	アメリカハマグルマ				○			○			1, 4	
	アラゲハンゴンソウ						○				1	
	アレチウリ	○		○							○	1
	アレチハナガサ						○					1, 3
	イタチハギ					○						1
	インパチェンス類(アフリカホウセンカまたはニューギニアホウセンカ)					○						4
	ウマゴヤシ									○		1
	エゾノギシギシ						○					1
	オウゴンカズラ(ポトス)							○				4
	オオカナダモ					○					○	1
	オオキンケイギク	○		○							○	4
	オオバナチョウセンアサガオ(キダチチョウセンアサガオ)						○				○	1
	オオフサモ	○		○						○		1, 3
	オランダガラシ					○						1
	カッコウアザミ						○					1
	カラシナ						○					1
	キシウスズメノヒエ						○					1
	キシウブ					○					○	1
	ギンネム					○					○	1
	クスマツメクサ									○		1
	ケシ										○	1
	コカナダモ					○					○	1
	コゴメミズ					○						1
	コダチチョウセンアサガオ						○				○	1
	コメツブウマゴヤシ									○		1
	コンテリクラマゴケ						○					1
	シマトキンソウ									○		1
	シュロガヤツリ					○						1, 3
	シンテップウユリ						○					1
	セイロンベンケイ					○						1, 4
	タカサゴユリ						○				○	1, 2, 4
	タチアウキセンダングサ						○				○	1, 2
	タチスズメノヒエ					○						1, 3
	チョウセンアサガオ						○				○	1
	ツルアズキ									○		1
	ツルヒヨドリ(コバナツルギク)	○		○								1
	トウゴマ										○	1
	ドクニンジン						○				○	1
	ドクムギ										○	1
	ナガエツルノゲイトウ	○		○						○		1
	ナガバオモダカ					○					○	1
	ナルトサウギク	○		○							○	1
	ナンバンアカバナアズキ									○		1
	ネコアサガオ					○						1
	ハナシユクシャ						○					1
	ハリビユ										○	1, 3
	ヒマワリヒヨドリ						○				○	1
	ヒメクマツヅラ						○					1
	ヒメツルソバ						○					1
	ブタクサ										○	1
	ヘラバヒメジョオン										○	1
	ボタンウキクサ	○		○						○		1, 4
	ホテイアオイ					○		○	○			1, 2, 3
	ムラサキカッコウアザミ						○					3
	メリケンガヤツリ					○						3
	メリケンカルカヤ						○				○	1
	メリケンムグラ										○	1
	モミジバヒルガオ(モミジバアサガオ)					○						1, 4
	ヤナギハナガサ						○					1
	ヤナギバヒメジョオン										○	1
	ヤナギバルイラソウ						○					3
	ランタナ					○						1
合計	68種類	8種類	0種類	9種類	17種類	24種類	4種類	2種類	11種類	25種類		

(注) 和名の五十音順で表示した。

(注) 奄美大島で確認されている外来種のうち、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律、生態系被害防止外来種リスト、指定外来動植物による鹿児島島の生態系に係る被害の防止に関する条例、鹿児島県外来種リストにおいて、特に対策が必要とされている種を掲載した。

分布情報の出典

1：鹿児島県外来種リスト(平成29年3月改正 鹿児島県ウェブサイト)

2：侵入生物データベース(独立行政法人 国立環境研究所 ウェブサイト)

3：川西基博. 2018. 奄美大島の河川に生育する外来種. In 奄美群島の野生植物と栽培植物—研究最前線からの報告. 鹿児島大学生物多様性研究会(編). 南方新社.

4：宮本句子. 2018. 奄美群島の在来植物と外来植物の野外調査と遺伝的解析2. 南太平洋海域調査研究報告. 59: 3-4.

(注) 分布情報が「琉球列島のほぼ全域」「県内全域」「離島を含む県内各地」「奄美群島、奄美諸島」等の記述の場合も、奄美大島に分布しているとみなした。

### 3 奄美大島の重要湿地-環境省「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」より-

湿地名	市町村名	湿地タイプ	生物群	生息・生育域	選定理由	選定基準 <sup>1)</sup>
笠利湾	奄美市、龍郷町	浅干潟、 海域	底生動物	笠利湾	潮間帯にシャミセンガイ類が生息する。ドロアワモチ、タテジマユムシ、ヒメギボシムシなど貴重種の多様性がさわめて高い。	2, 3
奄美大島の川内川および内海(注)	奄美市、大和村	河川、干潟、汽水域、 マングローブ湿地	マングローブ	奄美大島の川内川・内海	内海は塩湖に成立するマングローブ樹種の地理的に数少ない重要な分布地である。	1
			淡水魚類	奄美大島の川内川・内海	キバラヨシノボリ、放流個体を除けば奄美大島のみに生息するリュウキュウアユの生息地。河口にはマングローブ湿地が広がり、貴重なハゼ科魚類の生息地。	2
			爬虫両生類	奄美大島の川内川・内海	アマミハナサキガエル、アマミシカワガエルなどの生息地。	2
			昆虫類	奄美大島の川内川・内海	エグリタマミズムシなどの固有の水生昆虫が生息する。	2
			淡水貝類	奄美大島の川内川・内海	アマミカワニナ、スグカワニナ、ムチカワニナなど汽水性の大型カワニナ類の生息地。	2
住用湾流入河川および河口部(注)	奄美市	マングローブ湿地、河川	マングローブ	城内海	世界的な分布の視点から、北限域に分布するマングローブ樹種が生育する(メヒルギ、オヒルギ)。マングローブ林が形成される貴重な湿地のうち、とくに地理的に重要である。群落サイズも個体群を維持する上で十分な面積がある。	1
			マングローブ	住用川	世界的な分布の視点から、北限域に分布するマングローブ樹種が生育する(メヒルギ)。マングローブ湿地が湿地生態系の機能を有し、多様な動植物の生息・生育地となっている。群落サイズも個体群を維持する上で十分な面積がある。	1
			マングローブ	役勝川	世界的な分布の視点から、北限域に分布するマングローブ樹種が生育する(メヒルギ、オヒルギ、サキシマスオウノキ、シマシラキ)。マングローブ湿地が湿地生態系の機能を有し、多様な動植物の生息・生育地となっている。群落サイズも個体群を維持する上で十分な面積がある。	1, 3
			淡水魚類	住用川	キバラヨシノボリ、リュウキュウアユの生息地。	2
			甲殻類	住用村 <sup>2)</sup> のマングローブ湿地および流入河川	住用川の住用川と役勝川の河口には、マングローブが大規模に発達している。両流入河川には、サワガニ類が生息する。	1, 2
			底生動物	住用川河口	広大なマングローブ湿地を擁し、林内には希少な巻貝類が生息する。	2
			奄美大島南部の 渓流域(注)	奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町	その他河川、 湿地	爬虫両生類
			昆虫類	奄美大島南部の渓流域	エグリタマミズムシ、アマミダルマガムシ、アマミチビミズムシなどの固有の昆虫類が多い。	2
奄美大島大和村の湿地	大和村	その他湿地	昆虫類	奄美大島大和村の湿地	ハネナガチョウトンボの生息地。	2
加計呂麻島の 海岸湿地群	瀬戸内町	干潟	底生動物	加計呂麻島の海岸湿地群	オカミミガイ類などの生息地。	2
勝浦川下流域の 農業用水系	瀬戸内町	水路	淡水貝類	勝浦川下流域の農業用水系	アマミカワニナ、カノコガイ類の生息地。	2

1) 重要湿地選定基準

基準1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・砂浜・マングローブ湿地、藻場、サンゴ礁等の生態系のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合

基準2：希少種、固有種等が生育・生息している場合

基準3：多様な生物相を有している場合(ただし、外来種を除く)

基準4：特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する場合

基準5：生物の生活史の中で不可欠な地域(採餌場、繁殖場等)である場合

2) 市町村合併により、現在は奄美市住用町となっている(指定当時のままの記載とした)。

(注)：ラムサール条約登録潜在候補地(出典：ラムサール条約湿地潜在候補地の選定について(環境省ウェブサイト))

(出典：「生物多様性の観点から重要度の高い湿地(環境省ウェブサイト)」をもとに作成)



## 4 奄美大島の干潟-鹿児島県レッドデータブック2016「鹿児島県の重要な干潟」より

区分	名称	場所	注目点
規模の大きな重要な河口干潟・汽水干潟	川内川河口・内海干潟	奄美市住用町	チドリ類、シギ類はいないがサギ類、ミサゴを確認 絶滅危惧種を含む汽水性ハゼ亜目魚類が生息し、多様性の高い魚類相 リュウキュウアユ仔稚魚(海洋生活期)の成育環境 鹿児島県絶滅危惧Ⅱ類オキナワヒライソガニの数少ない産地 ウミナナ類などの絶滅危惧種を含む淡水性汽水性希少貝類が多い
	住用川・役勝川河口のマングローブ干潟	奄美市住用町	メヒルギとオヒルギを主体とする広大なマングローブ林 絶滅危惧種を含む汽水性ハゼ亜目魚類が豊富で極めて多様性が高い魚類相 リュウキュウアユ仔稚魚(海洋生活期)の成育環境 ウミナナ類などの絶滅危惧種を含む淡水性汽水性希少貝類が非常に多い 鹿児島県絶滅危惧Ⅰ類ヤエヤマヒルギシジミの生息北限地 ミナミコメツキガニの県内最大の生息地
規模は小さいが重要な中小河川の河口干潟や小規模前浜干潟	手花部の干潟	奄美市笠利町	小規模なマングローブ林が存在 ミサゴ、エリグロアジサシ、コアジサシなどの記録あり 鹿児島県絶滅危惧Ⅱ類ミナミアシシロハゼの生息地 絶滅危惧種を含む淡水性汽水性貝類が多い ミドリシャミセンガイを多産 シオマネキ類が豊富
	戸口干潟	龍郷町	チドリ類、シギ類の中継地 ウミナナ類などの絶滅危惧種を含む淡水性汽水性希少貝類が多い
	大川河口域干潟	奄美市名瀬小湊	サギ類、カモ類、ハジロクロハラアジサシなどの中継地 ウミナナ類などの絶滅危惧種を含む淡水性汽水性希少貝類が多い
	嘉徳川河口干潟	瀬戸内町	ウミナナ類などの絶滅危惧種を含む淡水性汽水性希少貝類が多い 日本固有種で鹿児島県準絶滅危惧のカワスナガニの生息地
総合的な保全が求められる干潟群・前浜干潟	笠利湾の干潟群	奄美市笠利町(赤木名、手花部、喜瀬) 龍郷町(赤尾木、龍郷、屋入)	鳥類の渡りの中継地(笠利町大瀬海岸) 鹿児島県絶滅危惧Ⅱ類のミナミアシシロハゼや情報不足のミズハゼ類の生息地 ウミナナ類などの絶滅危惧種を含む淡水性汽水性希少貝類が多い ミドリシャミセンガイの健在産地、潮間帯でシャミセンガイ類が観察できる場所として世界的に見ても貴重 ミナミアナジャコ、ハサミカクレガニの北限地 鹿児島県絶滅危惧Ⅰ類のハサミカクレガニの唯一の確認地 湾口に近い干潟には、ウミジグサ、ウミヒルモから成る海藻帯が発達
	大浜海浜公園～知名瀬干潟	奄美市名瀬	ウミナナ類などの絶滅危惧種を含む淡水性汽水性希少貝類が多い
	思勝湾・湯湾釜・大和川河口	大和村	ウミナナ類などの絶滅危惧種を含む淡水性汽水性希少貝類が多い 鹿児島県絶滅危惧Ⅰ類のカバフチカノコガイ、絶滅危惧Ⅱ類のスグカワニナが記録されている
	焼内湾沿岸の干潟	宇検村	リュウキュウアユ仔稚魚(海洋生活期)の成育環境 鹿児島県準絶滅危惧のヒゲワラスボ、情報不足のヒトミハゼなど多くの汽水性ハゼ亜目魚類の生息地 イリオモテマメコブシガンなど多くのカニ類の生息地 アマミカワニナ(鹿児島県絶滅危惧Ⅰ類)などの絶滅危惧種を含む淡水性汽水性希少貝類が多い
	大島海峡沿岸の小規模干潟群	瀬戸内町	ウミナナ類などの絶滅危惧種を含む淡水性汽水性希少貝類が多く、アマミマメコブシガニなどカニの貴重種が豊富(小名瀬の干潟) 汽水性のハゼ亜目魚類が多く、シオマネキ類が豊富(呑之浦の干潟)

[出典：「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編-鹿児島県レッドデータブック2016-（鹿児島県 環境林務部 自然保護課）」をもとに作成]

## 5 文化財の指定状況

### 国指定

名称	所在地	指定年月日	種別	所有者・管理者
アマミノクロウサギ	奄美大島(徳之島)	1963(昭和38). 7. 4	特別天然記念物	鹿児島県
ルリカケス	奄美大島・加計路麻島・請島	1921(大正10). 3. 3	天然記念物	鹿児島県
神屋・湯湾岳	奄美市住用町・宇検村	1968(昭和43). 11. 8	天然記念物	農林水産省
アカヒゲ	奄美大島(徳之島)	1970(昭和45). 1. 23	天然記念物	所在市町村
オカヤドカリ	南西諸島	1970(昭和45). 11. 12	天然記念物	所在市町村
オオトラツグミ	奄美大島	1971(昭和46). 5. 19	天然記念物	所在市町村
カラスバト	鹿児島県	1971(昭和46). 5. 19	天然記念物	所在市町村
オーストンオオアカゲラ	奄美大島	1971(昭和46). 5. 19	天然記念物	所在市町村
トゲネズミ	奄美大島(徳之島)	1972(昭和47). 5. 15	天然記念物	所在市町村
ケナガネズミ	奄美大島(徳之島)	1972(昭和47). 5. 15	天然記念物	所在市町村
諸鈍芝居	瀬戸内町諸鈍	1976(昭和51). 5. 4	重要無形民俗文化財	諸鈍芝居保存会
秋名のアラセツ行事	龍郷町秋名	1985(昭和60). 1. 12	重要無形民俗文化財	秋名ヒラセマンカイ保存会
宇宿貝塚	奄美市笠利町宇宿	1986(昭和61). 10. 7	史跡	奄美市
泉家住宅	奄美市笠利町宇宿	1994(平成6). 7. 12	建造物	泉 一郎
大和浜の オキナワウラジロガシ林	大和村大字大和浜	2008(平成20). 3. 28	天然記念物	大和浜集落
赤木名城跡	奄美市笠利町里	2009(平成21). 2. 12	史跡	民有地・奄美市教育委員会
小湊フワガネク遺跡	奄美市小湊	2010(平成22). 8. 5	史跡	民有地・奄美市教育委員会
小湊フワガネク遺跡出土品	奄美市	2016(平成28). 8. 17	考古資料	奄美市教育委員会

所在地：奄美群島に関するもののみ記載した。( )は奄美市・大和村・宇検村・瀬戸内町・龍郷町が含まれない地域

[出典：平成30年度 奄美群島の概況(鹿児島県 大島支庁 総務企画部 総務企画課)]

### 県指定

名称	所在地	指定年月日	種別	所有者・管理者
南州流謫跡	龍郷町龍郷	1955(昭和30). 1. 14	史跡	龍 まさ子
秋名のショチョゴマ及び ヒラセマンカイ	龍郷町秋名	1982(昭和57). 5. 7	無形民俗文化財	秋名ヒラセマンカイ保存会
油井の豊年踊り	瀬戸内町油井	1983(昭和58). 4. 13	無形民俗文化財	油井豊年踊り保存会
城間トフル墓群	奄美市笠利町万屋	1993(平成5). 3. 24	史跡	民有地・奄美市教育委員会
奄美大島のノロ関係資料	奄美市笠利町・名瀬、 宇検村、瀬戸内町	2003(平成15). 4. 22	有形民俗文化財	所在市町村
(追加指定)	大和村	2006(平成18). 4. 21	有形民俗文化財	所在市町村
(追加指定)	宇検村	2012(平成24). 4. 20	有形民俗文化財	所在市町村
イボイモリ	奄美大島(徳之島)	2003(平成15). 4. 22	天然記念物	所在市町村
イシカワガエル	奄美大島	2003(平成15). 4. 22	天然記念物	所在市町村
大和浜の群倉	大和村	2004(平成16). 4. 20	建造物	大和村教育委員会
オットンガエル	奄美大島・加計呂麻島	2005(平成17). 4. 19	天然記念物	所在市町村
節田マンカイ	奄美市笠利町節田	2008(平成20). 4. 22	無形民俗文化財	節田マンカイ保存会
請島のウケユリ自生地	瀬戸内町	2008(平成20). 4. 22	天然記念物	瀬戸内町教育委員会
佐仁の八月踊り	奄美市	2011(平成23). 4. 19	無形民俗文化財	佐仁八月踊り保存会
アマミハナサキガエル	奄美大島(徳之島)	2011(平成23). 4. 19	天然記念物	所在市町村

所在地：奄美群島に関するもののみ記載した。( )は奄美市・大和村・宇検村・瀬戸内町・龍郷町が含まれない地域

[出典：平成30年度 奄美群島の概況(鹿児島県 大島支庁 総務企画部 総務企画課)]

### 市町村指定

種類	奄美市	大和村	宇検村	瀬戸内町	龍郷町
有形文化財	13	0	3	28	4
無形文化財	0	0	0	0	1
民俗文化財	6	110	3	5	0
記念物	20	0	2	6	2
合計	39	110	8	39	7

[出典：平成30年度 奄美群島の概況(鹿児島県 大島支庁 総務企画部 総務企画課)]



## 6 奄美の民謡(島唄)に現れる自然

カテゴリー	名称	備考	島唄名
海生生物	羽黒魚(シイラ)	「烏賊ぬ生餌見ち 油断すんな羽黒魚」	一切朝花
	烏賊(イカ)	(恋人を他人に取られるな)	うらとみ(八月踊り唄)
	くぶしゅ(小魚)	「生間の泊まり(港)に くぶしゅめ(季節によって来る小魚:遊女に例えた)が寄ってくる」	すばやど節
	蛸、海鼠	「エー蛸(タコ)は骨なし、海鼠(ナマコ)は身なし 会津殿様 アコリヤ 城がなし」	(踊り唄)天草
	亀	「朝潮満上りや 亀ぬ 亀ぬ潮時(亀の出てくる潮時)」「夜中さきなりば 二才衆た女童潮時」	(踊り唄)やんばる 朝潮満上り
	亀ぬ魚	「亀の魚」というのは今の感覚では不自然だが、「魚」は海にいる動物を広くいっていた。	朝顔節
	ふと(海獣の一種)	「喜界米ぬ飯や熟み美らさ芳しや うれが御添物や ふとぬ真肉」(おかずは ふとの真肉だ)	喜界や湾泊り
淡水生物	蛙	「捕ったら蛙ぐあ七ち 食ちゆて根引き」(蛙を七匹、それを食って婚礼だ)	子守唄
	蟹(がん)、さい(沼エビ)、さい手長・たなが	「蟹取りやぬ妻んきやぬ嬉しゃるどう」「沼蝦取りやぬ妻んきやぬ嬉しゃるどう」(金かぶ節) 「大和浜の降り口辺に餅米のご飯があるということだ。それのおかずには、茸、木耳、さい(沼エビ)、たなが(手長エビ)だ。」(雨なぐれ)	雨なぐれ、コウキ節、らんかん橋節、あんちゃんな節、金かぶ節
	昆虫など	「徳之島に向かって飛んでるきれいな蝶よ 一時待って蝶よ 愛しい人に伝言頼もう」 「夕べは不思議なことに、蜘蛛が舞下がった。今日も不思議なことに あなたにお会いして」	徳之島節
鳥	綾蝶、蜘蛛	「徳之島に向かって飛んでるきれいな蝶よ 一時待って蝶よ 愛しい人に伝言頼もう」 「夕べは不思議なことに、蜘蛛が舞下がった。今日も不思議なことに あなたにお会いして」	徳之島節
	蟻、蚊(がじゃん)	蟻:唄の前の唱言に出てくる「蟻も知らん虫も知らん」 蚊:「蚊ぬ沢山処や 前野蚊」	太鼓遊び、全島口説
	蛸	「蛸集めてど 勝り者成るたる ランプ屋なちゆて 油断するな」	いしん頂節
	烏・鴉	奄美にも鴉の鳴くのは人の死を予兆するという伝えがある	全島口説
	白鷺・白鳥 千鳥、浜千鳥	「船ぬ外艦に 白鷺ぬ居ちゆり 白鷺やあらぬ 姉妹神加那志(うなりかみなし)」 (姉妹が神(白鷺・白鳥)となり船旅を守ってくれるという信仰があった) 「千鳥浜千鳥 何故汝や鳴きゆり 母面影ぬ」	ヨイスラ節、夕凧節
	鳩、唐鳩、あい鳩	「山ぬ鳥鳩や 羽すぶていちゆり 親居らぬ吾ぬや 肩ぬヨすぶでい」 「山ぬ木ぬ枝ぬ あい鳩やから鳩 口ぬきよしゃしゅで何がよ話ちゆり」	永良部の子守唄2 子守唄
	鶴	「若松ぬ下に 亀ぬ魚が遊び 鶴や羽垂れて 舞い美(ぎよ)らさ」 (若松の下に 亀の魚が遊び、鶴は羽を垂れて舞うのが美しい)	朝顔節
	鶯	(山の鶯は春になれば鳴く 私たちも時節がくればお会いしましょう 島の友人たちよ)	俊良主節
赤ひげ	「赤ひげ居った 居った 赤ひげ一匹つければ 玄米ぬ三升や うきむんじゃ」 (赤ひげがいたぞ 赤ひげ一匹捕れば、玄米の三升、儲けものだ)	赤ひげ鳥	
山鴉・山鳥	磯端の松の木の辺に山鳥が子を生んでいるが親鳥は飛ぼうとし、子鳥は餌を食べようと鳴いている	請くま売女節	
家畜等	牛	いびじの(海老角、海老のように鋭い角を持った牛)、とれうし(喧嘩牛、闘牛用の牛)が出てくる	全島口説(徳之島)
	山羊	「行けば行き離れ 戻ればぬ山羊や 千里駆け戻て 元ぬ山羊」(意味不詳)	(踊り唄)やんばる

カテゴリー	名 称	備 考	島唄名
植物など	あだん葉	「山原ぬ習い あだん葉ぬ筵 敷かば寄りみしよれ 首里ぬ主前」	(踊り唄) やんばる
	あさごろ、ゆずる	「山ぬ木ぬ軽さ あさぐるとうゆぐる」(あさごろ、ゆずる木の種類?)	糸満あかぶさ(夏目踊り)
	いしょがね	「いしょがね浜」実のなる植物の一種	しきしま口説
	芋	芋ぬ葉	ヨーカナ節
	うらじろ、ユズリ葉	元旦の朝、床の間に向かって見ると 裏白とユズリ葉で祝ってあって美しい	長朝花
	百合ぬ花	見たい愛しい親兄弟たちよ それよりも見たいものは2, 3月に咲く百合の花	俊良主節
	金かぶ	「道ぬ端ぬ金かぶぐわ来年もなれよ金かぶぐわ」(蜜柑の一種とも蕪類の一種とも言われる)	金かぶ節
	くさん竹	「くさん竹ぬ節や 間隔近きややすいが 其れいよりも近きやさや汝ん縁と吾ん縁」	徳ぬさみ岳
	くば・くばぬ葉	くばの葉(枇榔の葉)であるが、もちなし(その形状のことか)のきれいなこと。玉の団扇	くばぬ葉節
	笹草	「海ぬ笹草や 浦々に寄よい 此処愛しやあていど 此処に寄よい付ちやる」	海ぬ笹草
	地豆、生姜、竹藪、たーむじ、蘇鉄、芭蕉葉	たーむじ(芋の葉に似た葉を持つ食用植物)	全島口説(徳之島)
	椎	椎は成るな。阿室のちょうまち(女性名)のように骨を散らすよ(くるだんど節) ※椎はどんぐりが成り、かつて重要な食料とされた	くるだんど 昔くるだんど節
	蘇鉄	「西ノ口から白帆を巻き巻きやってくる。もう食べ物も大丈夫。蘇鉄の実から採ったでん粉の粥などもう捨ててしまいなさい。」(蘇鉄粥:かつての飢饉食)	豊年節
	ちば葉	「ちば葉ぬ芭蕉葉ぬ 其処なんあるが」 ちば葉(つばさ、植物名)	ちょうきく節
	とびらぎ	「山ぬ木ぬ臭さ とっぴいら木ぬ臭さ」 植物名 臭気が強い	糸満あかぶさ(夏目踊り)
	芭蕉・芭蕉葉	「こころ持てばかな 芭蕉ぬ葉ぬ広さ 松の葉の狭さ こころ持てなヨかな」	うらとみ(八月踊り唄)
	ゆだくらばな	「めーとく(人名) 田袋ぬめんちゃ加那 山躑躅花(ゆだくらばな)にちん惚れて・」	子守唄
	榕樹	「湯湾の榕樹(ガジュマル)のところに、鞍を掛けた立派な馬が立っている それに乗ろう・」	あんちゃんな節
	辣蕪(らっきょ)	(三京の山には、らっきょを作るものでないよ。ちょうきく(女性名)まんきく(男性名)のように、骨を散らして(死んで)しまおうよ)」	ちょうきく節
	木耳・なば	大和浜の降り口辺に餅米のご飯があるということだ。それのおかずには、茸、木耳、さい(沼エビ)、たなが(手長エビ)だ。	コウキ節、雨なぐれ、あんちゃんな節

[出典:「奄美民謡総覧(※)」をもとに作成]

※奄美民謡総覧

出版社:南方新社

監 修:指宿 良彦

編 者:セントラル楽器奄美民謡企画部、指宿 正樹、指宿 邦彦、小川 学夫

## 7 奄美の歴史年表

統治	西 暦	和 暦	できごと等	
	1億年前		奄美は海底にある①	
	1500万年前		琉球弧が初めて陸地になる② 沖縄トラフの形成②	
旧石器時代	180～150万年前		第一陸繋期(台湾から南・中琉球まで)② 氷期と間氷期を4度ほど繰り返す②	
	20～12万年前		第二陸繋期(台湾から南・中琉球まで)②	
	3～1万年前		第三陸繋期(台湾から南琉球まで)②	
	2万5千年前ごろ		生活址などが発見されている(奄美市・喜子川遺跡)①	
	2万1千年前		最寒冷期、最大海面底期①	
縄文時代	1万8千年前		最終氷期①	
	1万年前ごろ		現在のような琉球列島の島の状態になる②	
	9,500年前		温暖化期、縄文海進①	
弥生時代～古墳時代	約7,000～6,000年前		縄文海進と呼ばれる海面上昇に伴い砂丘が形成(古砂丘)② 弥生の小海退の影響により海岸砂丘が形成(新砂丘)② *奄美群島における現代の集落のほとんどは当該期以降に形成された新砂丘に立地している②	
	約3,000年前～			
弥生時代～古墳時代	西暦300年ごろ		この頃稲作伝来し、農業生活始まる③	
按司世	600	推古8年	この頃按司の発生①	
那覇世(琉球王朝)	1440年前後	永享12年前後	奄美大島が琉球王朝に支配される④	
	1604	慶長9年	野国総管、甘蔗をもたらす③	
大和世(薩摩藩)	1609	慶長16年	奄美群島、薩摩藩の直轄地となる②	
	1701	元禄14年	この頃大島代官、はげの木を1人につき5本ずつ年々植えさせ、黍見回りにはげのことも兼務させる③	
	1719	享保4年	幕府新田開発を奨励③	
	1872	明治5年10月	県、桑苗を配り養蚕を奨励する①	
鹿児島県	1875	明治8年	このころから石油使用始まる①	
	1880	明治13年	坊津の者、曾津高崎沖においてかつお漁業を試みる①	
	1880	明治13年	今年度からハブ撲殺費として3年間金400円ずつ交付、16年以降3年も同額交付③	
	1881	明治14年	請阿室集落の土地区画整理完成(奄美で最初の土地区画整理)①	
	1884	明治17年	村内に87台の製糖用水車が回っていた④	
	1885	明治18年7月	県道10線開通し18路線となる(名瀬港-支庁間を二等県道、名瀬-大和浜-宇検間、名瀬-金久-山間-古仁屋間を三等県道に指定)①	
	1896	明治29年8月	鹿児島-名瀬間に海底電話線敷設①	
	1897	明治30年	秋頃からカツオ漁業、鯉節製造始まる。特に西古見、管鈍、平田盛ん③	
	1898	明治31年	大島から蘇鉄葉を神戸に移出③	
	1900	明治33年	肝属郡前田孫吉、西古見でカツオ試漁、以後、カツオ漁盛んとなる③	
	1901	明治34年9月	全島ねずみ狩実施③	
	1905	明治38年	砂糖きび栽培が盛んになり栽培面積が1,597ヘクタールに達する④	
	1906	明治39年	茶種子の無償配布をし、栽培を試みる③	
	1908	明治41年2月	大阪商船、大阪-鹿児島-名瀬-古仁屋-徳之島-喜界航路を開く①	
	1910	明治43年	油井小島、俵小島で真珠養殖開始、大正6年初めて収穫③	
	1910	明治43年	植林奨励規則制定され、翌年から補助金交付③	
	1911	明治44年9月	大島電気株式会社開業⑥大島電気株式会社営業開始①	
	1912	明治45年4月	大島糖業試験場設置(現県農業試験場大島支場の前身)①	
	1912	大正元年10月	東洋捕鯨株式会社、東方村久根津に根拠地を置く(大正13年休業)①	
	1919	大正8年1月	名瀬金久-伊津間に電話開通(奄美で最初の市内電話)①	
	1919	大正8年8月	住用水力発電所完成(名瀬・住用に供給、奄美で最初の水力発電所)①	
	1920	大正9年	奄美で最初の自動車が走る①	
	1921	大正10年3月	ルリカケス、アマミノクロウサギが天然記念物に指定される①	
	1921	大正10年	この年、赤木名-名瀬-住用間に乗合自動車運行①	
	1922	大正11年5月	県令でハブ駆除費補助規定を定める③	
	1933	昭和8年3月	大島郡で水稲早期栽培着手(風対策のため県農業試験場が開発)①	
	1941	昭和16年	元井綱信氏が垂水からぼんかんの苗を導入し700本植える。奄美群島でのぼんかん栽培の始まりとなる④	
	米軍	1946	昭和21年1月	連合軍最高司令部の覚書により、本土と分離される⑥
	鹿児島県	1953	昭和28年12月	奄美群島は日本に返還され、再び鹿児島県大島支庁が設置される⑥
		1953	昭和28年	終戦後の食糧難のために山腹まで開墾され甘蔗の切替畑栽培が行われる④
		1953	昭和28年	当分の間、奄美群島から奄美群島以外の地域への、ミカンコミバエ、アリモドクゾウムシ、アフリカマイマイの移動が禁止される④
		1954	昭和29年6月	奄美群島復興特別措置法制定(昭和29年法律第189号)⑥
1955		昭和30年9月	油井小島で真珠母貝「マベ貝」の増殖に成功①	
1955		昭和30年	岩崎産業大和製材工場操業②	
	1957	昭和32年	本格的なLPガス導入開始⑥	
	1959	昭和34年9月	新住用水力発電所完成、11月運用開始(県内初、九州で2番目の高堰堤アーチダム)①	

統治	西 暦	和 暦	できごと等
鹿児島県	1961	昭和36年12月	瀬戸内漁協捕鯨事業認可、久根津に処理場開設①
	1961	昭和36年12月	笠利町に富国製糖奄美工場完成①
	1963	昭和38年7月	アマミノクロウサギが国の特別天然記念物に指定される①
	1964	昭和39年7月	奄美空港と鹿児島、徳之島、喜界島を結ぶ航空路線開設①
	1965	昭和40年	市集落到うなぎの養殖施設が完成する④
	1966	昭和41年	奄美の全島に電力が供給される④
	1967	昭和42年5月	名瀬市で都市ガス供給開始①
	1967	昭和42年	養殖漁業への第一歩として内海にクルマエビを30万尾放流する④
	1967	昭和42年	新しい禁漁区を設定し、伊勢えび等を保護する④
	1968	昭和43年3月	宇検村田検に奄美大島最初のチップ工場完成①
	1968	昭和43年	佐大熊埋立工事完了③
	1968	昭和43年11月	アカヒゲが国の天然記念物に指定される①
	1969	昭和44年5月	瀬戸内町でアフリカマイマイ航空防除試験①
	1969	昭和44年10月	蘇川浦底でクルマエビの養殖着手、稚魚15万尾放流①
	1969	昭和44年	佐大熊小浜埋立工事完成③
	1969	昭和44年	戸玉集落到チップ工場(協栄木材)を誘致し、パルプ・チップの生産を始める④
	1970	昭和45年5月	第三次土地区画整理事業完了③
	1970	昭和45年7月	奄美の自動車、1万台突破①
	1970	昭和45年11月	本場奄美大島純20万反突破①
	1971	昭和46年1月	金作原林道貫通落成式③
	1972	昭和47年2月	奄美大島のスーパー林道開通①
	1972	昭和47年2月	古仁屋地区に都市ガス供給始まる(瀬戸内ガス)①
	1972	昭和47年	大島中央林道開通式③
	1972	昭和47年	砂糖さびに代わり、ぼんかん・実えんどう・にんにく等への転作が農家同士の連携により進められる④
	1974	昭和49年1月	奄美群島国定公園を指定③
	1974	昭和49年4月	オニヒトデ駆除事業開始、ミカンコミバエ全都一斉防除着手①
	1975	昭和50年12月	名瀬市鳩浜埋立完成①
	1977	昭和52年1月	米丸操支庁長、与路島を「ハブ撲滅モデル地区」に指定①
	1977	昭和52年9月	「イノシシ」加計呂麻島に急増被害目立つ①
	1979	昭和54年5月	奄美大島、喜界島、徳之島でミカンコミバエ根絶、生果持ち出し解禁①
	1979	昭和54年12月	春日埋め立て完成(6,620平方メートル)①
	1980	昭和55年10月	節子養豚団地飼養開始①
	1981	昭和56年7月	国道58号線の全線舗装完成(名瀬-古仁屋間が30分短縮され1時間半となる)①
	1984	昭和59年	希少動植物保護のため住用鳥獣保護区と八津野鳥獣保護区が設定される④
	1985	昭和60年3月	芦瀬地先公有水面埋立事業(6.74ヘクタール)着工①
	1987	昭和62年6月	芦瀬埋立完成①
	1987	昭和62年	ウリミバエが根絶されたので、カボチャ等の島外への持ち出しが解禁となる④
	1988	昭和63年	新奄美空港が開港し、ジェット機が就航する④
	1989	平成元年	ウリミバエ撲滅宣言が出される④
	1989	平成元年	リュウキュウアユの稚魚2千尾を沖縄県名護市へ送る④
	1991	平成3年9月	宇検村湯湾干拓地の潮遊地埋立完成(住宅地・工場用地)①
	1991	平成3年	種苗放流として奄美で初めて内海と住用湾に台湾ガザミの稚ガニ6万匹を、市沖にトコブシを放流する④
	1992	平成4年	村漁協が育てたガザミ10万匹を放流する④
	1993	平成5年3月	松くい虫芝の山林で確認、大島支庁農林課発表①
	1993	平成5年	台湾ガザミの稚ガニ5万匹を内海、山間湾、市港に放流する④
	1998	平成10年9月	「奄美野鳥の会」ハミヤ島で「オオミズナギドリ」の繁殖確認①
	1998	平成10年9月	サンゴの白化現象、瀬戸内町を含む琉球列島全域に広がる①
	1999	平成11年1月	ヤンバルトサカヤズデ発生、奄美全域に拡大①
	2000	平成12年4月	奄美フォレストポリス全施設開園(4月15日)②
	2000	平成12年4月	奄美野生生物保護センター開所(4月26日)②
2000	平成12年7月	大島海峡で「オニヒトデ」異常発生(16日間で4,288匹駆除)①	
2000	平成12年10月	環境庁、奄美大島のマングローブ本格駆除開始①	
2001	平成13年7月	マングローブパーク開園④	
2006	平成18年5月	オニヒトデ買い取り、サンゴ保護で奄美初①	
2008	平成20年4月	大和ダム供用開始②	
2014	平成26年7月	格安航空会社(LCC)が奄美路線に就航⑥	
2015	平成27年12月	ミカンコミバエ種群の発生による規制対象品目の島外移動規制始まる⑥	
2016	平成28年7月	奄美大島におけるミカンコミバエ種群の緊急防除省令を廃止⑥	
2017	平成29年3月	奄美群島国立公園誕生⑥	
2018	平成30年3月	環境省、県、奄美大島5市町村によるノネコ管理計画策定⑥	

出典

- ①瀬戸内町誌 歴史編(瀬戸内誌歴史編編纂委員会)
- ②大和村誌(大和村誌編纂委員会)
- ③龍郷町誌 歴史編(龍郷町誌歴史編編纂委員会)
- ④わきゃシマぬあゆみ 第1集(住用村誌編集委員会)
- ⑤名瀬市誌 上巻(名瀬市誌編纂委員会, 1983)
- ⑥平成26年度～平成30年度奄美群島の概況(鹿児島県 大島支庁 総務企画部 総務企画課)



## 8 奄美大島における主な自然ふれあい関連施設

施設名	概要	関連ウェブサイト
奄美野生生物保護センター	奄美群島の生き物や生態系を保全することを目的に設立された環境省の施設です。希少な野生生物の生息・生育状況の把握や、マンブーアの捕獲をしており、野生生物保護に対する理解や関心を深めるために映像・展示等でわかりやすく解説しています。	奄美野生生物保護センター (のんびり奄美 ウェブサイト)
奄美自然観察の森	長雲山系を活用し、自然とふれあいながら自然の素晴らしさを体験・学習することができます。園内の森の館では身近にある自然をわかりやすく紹介するため展示やスライド、ビデオ上映などを行っています。	奄美自然観察の森 (のんびり奄美 ウェブサイト)
奄美フォレストポリス	ふれあいゾーン、水辺のゾーン、キャンプゾーン、溪流ゾーンの4つのゾーンからなる亜熱帯森林内の公園です。様々な施設が整っている観光スポットの一つで、各ゾーンごとに遊びながら自然とのふれあいや、野外観察などを楽しむことができます。	奄美フォレストポリス(奄美森林浴公園) (のんびり奄美ウェブサイト)
黒潮の森マングローブパーク	マングローブ原生林と、絶滅危惧種のリュウキュウアユの生態などを自然とふれあいながら紹介する公園施設です。館内では写真やシアターなどで生物たちについて知ることができます。また、マングローブ原生林内を探検することができるカヌー体験は大変人気があります。	黒潮の森マングローブパーク (のんびり奄美 ウェブサイト)
奄美市立奄美博物館	奄美特有の文化や歴史、奄美の自然状況などについて模型や道具などの豊富な資料を展示しています。奄美について詳しく知ることができます。	奄美博物館 (のんびり奄美 ウェブサイト)
奄美海洋展示館	「海と人との共生」をテーマに、奄美の人々との暮らしと海との深い関わりを知ることができる施設です。奄美近海のいろいろな生物や昔ながらの伝統漁法(イザリ漁)などを展示しています。	奄美海洋展示館 (奄美市 ウェブサイト)
瀬戸内町立図書館・郷土館	国指定重要民俗文化財の諸鈍シバヤや油井豊年踊り、ノロの祭具などの資料を展示しているほか、瀬戸内町の歴史や文化、伝統芸能についても写真や映像などでわかりやすく学ぶことができます。	瀬戸内町立図書館・郷土館 (のんびり奄美 ウェブサイト)
本場奄美大島泥染紬公園	奄美大島の伝統産業である「本場奄美大島紬」。絹糸を泥で染めるのは、この大島紬ならではの手法です。本場奄美大島紬泥染公園は、この泥染を体験できる場所として利用されています。一般の観光客の方も、気軽にTシャツやハンカチなどの染め物体験ができます。	泥染公園 (奄美市 ウェブサイト)
鹿児島県立奄美少年自然の家	奄美の豊かな自然と文化を生かした体験活動を通して青少年の健全育成を図るとともに、生涯学習の拠点施設として地域と一体となった運営に努めています。	奄美少年自然の家 (鹿児島県 ウェブサイト)
生涯学習センター「元気の出る館」	倉木崎海底遺跡の遺物及びノロ関係資料等の展示を行っています。	生涯学習センター「元気の出る館」 (宇検村 ウェブサイト)
あやまる岬	奄美市笠利の北東部に位置している太平洋につきだした岬です。こんもりと丸い地形が綾にありなす「まり」に似ていることからその名がついたと言われています。	あやまる岬 (のんびり奄美 ウェブサイト)
油井岳展望台	奄美大島と加計呂麻島の間横たわる美しいリアス海岸と大島海峡を一望できます。加計呂麻島、請島、与路島に加え、徳之島まで見渡せることがあります。	油井岳展望台 (のんびり奄美 ウェブサイト)

[出典：各種資料をもとに作成]



## 9 奄美大島生物多様性地域戦略 策定から改訂までの経過

策定時(2013年～2015年(平成25年～平成27年))

### (1) 奄美大島生物多様性地域戦略策定運用協議会

開催年月日		概要	会場
2013年(平成25年)	10月10日	設置準備会、第1回協議会 (事業計画、予算承認)	奄美市役所 4階 会議室
2014年(平成26年)	2月26日	第2回協議会 (事業経過確認)	奄美市 中央公民館

### (2) 奄美大島生物多様性地域戦略策定に係る専門委員会

開催年月日		概要
2013年(平成25年)	11月 7日	策定方針、策定手順等の検討
2014年(平成26年)	2月 7日	骨子案と重点施策及び行動計画の考え方検討
	8月21日	基本的事項と重点施策及び行動計画内容検討
	10月20日	戦略原案の確認

### (3) 地域意見交換会

(第1回目:大切にしたい島の宝物、未来の奄美の姿についてのイメージ作り)

開催年月日		地域	会場	参加者
2014年(平成26年)	1月15日	龍郷町	役場会議室	14名
	1月16日	大和村	役場会議室	12名
	1月17日	宇検村	役場会議室	9名
	1月20日	奄美市	奄美振興会館	10名
	1月22日	瀬戸内町	郷土館	12名

合計57名

(第2回目:地域戦略の行動計画に必要なものについての意見交換)

開催年月日		地域	会場	参加者
2014年(平成26年)	8月26日	龍郷町	役場会議室	5名
	8月27日	大和村	役場会議室	9名
	8月28日	宇検村	役場会議室	8名
	8月29日	瀬戸内町	郷土館	13名
	9月 2日	奄美市	奄美市中央公民館	3名

合計38名

### (4) 地域住民等意見聞き取り

(第1回目:大切にしたい島の宝物、未来の奄美についての意見聴取)

開催年月日		地域	参加者
2014年(平成26年)	1月15日	龍郷町	4名
	1月16日・19日	大和村	4名
	1月17日	宇検村	4名他
	1月20日・21日	奄美市	7名
	1月22日・23日	瀬戸内町	5名

合計24名

(第2回目:地域戦略の行動計画・重点施策についての意見聴取)

開催年月日		地域	参加者
2014年(平成26年)	8月28日	大和村	4名
	8月29日	龍郷町	4名
	8月29日	宇検村	4名
	9月 1日	瀬戸内町	4名
	9月 2日～4日	奄美市	5名

合計21名

## (5) 市町村 庁内検討会

(第1回：素案内容検討)

開催年月日		市町村名
2014年(平成26年)	7月23日	奄美市
	7月24日	大和村
	7月24日	宇検村
	7月25日	瀬戸内町
	7月25日	龍郷町

(第2回：原案内容検討)

開催年月日	市町村名
2014年(平成26年) 12月19日	奄美市

## (6) パブリックコメント

意見提出者 6名  
意見の件数 101件

### 意見反映の検討結果

A：意見の趣旨などを反映し、案に盛り込むもの	62件
B：意見の趣旨などは、案に盛り込み済みのもの	6件
C：案に盛り込まないもの	27件
D：具体的な事業の実施にあたり参考にするもの	20件
E：その他質問・感想・要望など	0件

意見反映の検討結果については、複数の区分での取扱となるご意見があったため、意見の件数は101件ですが、意見反映の検討結果の合計は115件となりました。

## 改訂時(2019年～2020年(平成31年～令和2年))

### (1) 奄美大島生物多様性地域戦略改訂に係る専門委員会

開催年月日	概要
2019年(令和元年) 11月24日	中間評価案及び改訂骨子案の検討
2020年(令和2年) 2月4日	改訂案の検討及び専門委員会付帯意見等の提示

## 10 関係者名簿

### 平成25年度・26年度奄美大島生物多様性地域戦略策定に係る専門委員会委員

氏名	所属	備考
興 克樹	奄美海洋生物研究会 会長	
岡野 隆宏	元 鹿児島大学 特任准教授、現 環境省	H25年度
小栗 有子	鹿児島大学 生涯学習教育研究センター 准教授	H26年度
小野寺 浩	東京大学 特任教授	◎
喜島 浩介	奄美群島エコツアーガイド連絡協議会 会長	
四宮 明彦	元 鹿児島大学 教授	
清正 斉	NPO法人 奄美野鳥の会	
常田 守	NPO法人 環境ネットワーク奄美 副代表	
中山 清美	元 奄美市立奄美博物館 館長	○
服部 正策	東京大学 医科学研究所奄美病害動物研究施設 特任研究員	
馬場 繁幸	元 琉球大学 教授、NPO法人 国際マングローブ生態系協会	
濱田 太	写真家	
福田 晴夫	元 鹿児島県立博物館 館長	
山下 弘	奄美市盗採防止パトロール員、植物写真家	
山田 文雄	独立行政法人 森林総合研究所 上席研究員	
横田 昌嗣	琉球大学 理学部 教授	

◎委員長、○副委員長

### 令和元年度奄美大島生物多様性地域戦略改訂に係る専門委員会委員

氏名	所属	備考
岩田 治郎	前 一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット 専務理事	
小野寺 浩	鹿児島大学 客員教授	◎
服部 正策	東京大学 医科学研究所奄美病害動物研究施設 特任研究員	
本田 勝規	独立行政法人 奄美群島振興開発基金 理事長	

◎委員長

## 11 関連事業

### (1) 学習会・自然体験会

開催年月日		会場	内容
2013年 (平成25年)	11月 5日	奄美市 奄美振興会館	学習会 奄美の魅力を感じる夜語り会～先生たちと話してみよう～
	11月 6日	宇検村 元気の出る館	学習会 奄美の魅力を感じる夜語り会～先生たちと話してみよう～
2014年 (平成26年)	2月 8日	奄美市 役勝エコロード	奄美大島の自然の豊かさを感じる自然観察会
		瀬戸内町 郷土館	リュウキュウアユ・アマミノクロウサギ・マングローブ学習会
		宇検村 元気の出る館	リュウキュウアユ・アマミノクロウサギ・マングローブ学習会
		大和村 フォレストポリス	奄美大島の自然の豊かさを感じる自然観察会
	2月 9日	龍郷町 自然観察の森	奄美大島の自然の豊かさを感じる自然観察会
	8月19日	龍郷町 自然観察の森	奄美大島の自然の豊かさを感じる自然観察会
	8月20日	奄美市 マングローブパーク	奄美大島の貴重な自然 リュウキュウアユとマングローブの観察
		瀬戸内町 高知山	奄美大島の自然の豊かさを感じる自然観察会
宇検村 河内川流域		リュウキュウアユの生涯を体感する自然観察会	
大和村 フォレストポリス		奄美大島の自然の豊かさを感じる自然観察会	

### (2) 環境保全アクションイベント

開催年月日		会場	内容	備考
2014年 (平成26年)	10月18日	龍郷町 自然観察の森	ビオトープ造りに向けた生き物の移動作戦	
	10月19日	奄美市 マングローブパーク	奄美大島の貴重な魚 リュウキュウアユ保全活動(産卵床作り)	
		瀬戸内町 高知山	外来植物(アメリカハマグルマ) 駆除	
		宇検村 湯湾	マングローブの再生に向けたメヒルギの試験植栽	台風で2015年(平成27年)2月22日に延期
		大和村 フォレストポリス	外来植物(アメリカハマグルマ) 駆除	台風で2015年(平成27年)1月31日に延期

### (3) 奄美大島生物多様性地域戦略原案広報イベント

開催年月日		会場	内容
2014年 (平成26年)	2月21日	奄美市AiAiひろば	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域戦略解説</li> <li>パネルディスカッションにより生物多様性の保全と持続可能な利用について私達に関われることを協議</li> <li>会場との意見交換</li> </ul>

